

## 三商レポート

### 第三十一話 「セレンディピティ」

(株) 三商 内藤 雄

明けましておめでとうございます。

「三商レポート」をお読みいただきありがとうございます。

今年もよろしくお願い致します。

「セレンディピティ」とは、偶然を幸運に変える力・思わぬものを偶然に見出す能力・幸運を招きよせる力を意味します。

聖路加国際病院の日野原重明先生の著書「幸運な偶然をつかまえる」でも紹介され、最近よく耳にする言葉になりました。

セレンディピティにまつわるエピソードは、ノーベル賞の科学技術の世界でよく取りあげられています。例えば、ノーベル自身、不安定な液体爆弾を安定化させようと苦労を重ねますがなかなか成功しません。ところがある日、ニトログリセリンの保存容器に穴があいていて、そこから漏れたニトログリセリンが固まっているのに気づきます。容器の周囲にあった珪藻土が安定剤として機能していたのでした。ダイナマイトの製造法へのきっかけとなった瞬間です。失敗から幸運を導き出した好例です。

日本でも、島津製作所に勤務する田中耕一さんが受賞した「ソフトレーザー脱離イオン化法」の大発見は、大きなミスがきっかけでした。気の遠くなるような実験のくり返しの中で、間違った実験材料を混ぜてしまったが「もったいない」と実験を丁寧に続けた結果、見たこともない現象に出会い成果へとつながります。(その他の多くの実例は、宮永博史著「セレンディピティ」に詳しい。)

ノーベル賞のような大発見でなくても、セレンディピティは日常生活の中にもあります。NHK テレビ「ザ・プロフェッショナル」(平成 18 年 12 月 7 日放送)で紹介された、りんご農家の木村さんのケースもそうです。農薬や肥料を一切使わないりんごの栽培に挑んだものの 6 年間失敗の連続。失意のもと自殺を決意し、死に場所を探しに岩木山へ入った。山をさまよい歩くうちに、ふと目に入ったドングリの木がどうして害虫がつかず病気にならないのだろうと思った。木の根元を掘ってみると、手で掘れるほど柔らかい土だった。この土にヒントがあると気づいた。山から生還し、りんご畑を雑草が生い茂る土に変えた。そして 2 年後、無農薬のりんごが見事に実った。今では木村さんの育てたりんごは、インターネットで即日完売となる人気になっています。

これもまさにセレンディピティです。りんごだって本当は農薬などかけられた

くないのです。農薬を使わずに育ててくれる人をきっと待ち続けていたのです。

世の中には、誰かが見つけてくれるのをじっと待っている“宝物”があるのです。しかし、宝物や幸運は決して偶然にやってくるのではありません。日々努力し、一生懸命に頑張っている人のところにやってくるのです。それに気づき捕まえることができるのは、当たり前のことを当たり前のこととして実行し、しっかり準備をしていた人だけです。その意味で、セレンディピティは“能力”です。強く願い続ける意思をもって、地道な努力を積み重ね、機が熟したときに天からの贈り物としてやって来る。いま一生懸命に打ち込んでいる地道な仕事もいつか報われる日が来る。こう考えると、頑張れる気がしてきます。

(2007年1月5日)